

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270200551		
法人名	株式会社 ユタカ		
事業所名	花梨の郷2階		
所在地	千葉県花見川区千種町111-1		
自己評価作成日	令和3年12月3日	評価結果市町村受理日	令和4年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和4年2月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

掲げた理念を毎日のサービスで実施しています。医療面では、利用者に応じて往診医を取り入れてい  
ます。歯科医は2週間に1回、看護師が週に1回、利用者により週2回訪問し、健康チェックを行う体制に  
なっています。ケアの面では、利用者本位のケアを心がけ、ボランティアによる歌の教室やサロンなど  
の各種企画の場で利用者が自分の能力を発揮する機会を各場面に設けています。入浴はいつでも可  
能で、リフト浴機も備えています。利用者の重度化に伴い職員を一人増員してケアの万全を図ってい  
ます。また、近所の小学生との交流や託児所の子供との触れ合い、定期的なバザーの開催などで地域と  
の交流を大切にしています。スプリングラー及び2階には非常階段を設置、また、定期的な避難訓練も  
実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作り家族・職員にも見える玄関やリビングに掲示している。管理者と職員は理念を共有し、実践につなげるよう努力している。 月1回のフロア会議・合同会議で確認しながら実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中、町内会主催の行事参加や、買い物や散歩等を通じ顔見知りの方との触れ合い、近隣の小学校や中学校の体験学習会等の機会を持つ事が難しくなっているが、交流が途絶えないよう努めている。 近隣への福祉用具貸与・相談も受け入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は対面式での運営推進会議は行っていないが、会議の内容を報告、自治会長さんや民生委員さんと認知症の人の理解や支援の方法について話し合っている。民生委員さんを通じ地域住民の方々との交流が持てるように考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での話し合いでは、第三者評価の結果・ホーム内での現状を報告したり、感染症(インフルエンザや食中毒)の時期には対応策も説明している。 非常時に花梨で出来ること、協力して頂きたいことなども意見交換し、サービスの向上に生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者や区役所の援護課とは日頃から何かと相談の乗って頂いたり、グループホーム協会を通じて実情や困難事例等を報告している。また、事故発生時には速やかに報告し、積極的に行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内研修により、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は施錠せずアラームを使用している。内部、外部研修を予定している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修においても、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を設け、日常の会議でも事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族から要望のあった方に関しては支援させて頂いている。ホーム内研修も予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に詳細に説明し納得して頂いており、それ以外でも必要に応じて行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の際に、意見や要望を表せる機会を設けている。家族参加企画ではアンケートも実施している。また、契約の際にも国保連の相談窓口の案内をし、玄関にも連絡先を開示している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、個別面談や会議の場を通じ、運営に関する意見や提案を話し合える関係を作り、反映させている。 短時間パート募集は、職員からの意見を反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は勤務状況を把握し、個別面談時に話し合いの場を設け、職員個々の努力や実績・勤務態度や勤務状況が給与に反映できるよう努めている。又、賞与や会議手当・皆勤手当・資格手当等も有り、やりがい・向上心を持って働けるよう努めている。育児、産休を取得して妊娠・出産後も安心して働ける環境がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人のケアの実際と力量を把握し、ホーム内の研修開催や外部研修を受ける事で、働きながらステップアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しているので、同業者との交流や学ぶ機会がある。また、近隣グループホームとの合同企画を通じ職員の質の向上に向けた取り組みをしている。他施設からの研修生を受け入れている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や相談・事前訪問の際に本人からも聞き取りを行うことによって、不安に感じていることや困っていること等を直接聞く機会を設け、少しでも不安が軽減できるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や相談・事前訪問の際に本人がいない状況での聞き取りを行うことによって、不安なことや困っていること等を直接聞く機会を設け、今後の方向性や家族の要望等を話し合うことで、少しでも不安が軽減できるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	導入の際に、本人と家族からの話し合いを通じ、不安や要望を聞かせて頂くことから、何が改善されれば気持ちよく暮らせるかを見極め、他のサービスも含めた対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共にする中で、趣味や特技を発揮できる場面作りを行い、利用者自身から教えていただいたり、相談したりと、支えあえるような関係作りを努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と共に利用者を支えるチームの一員として協力し合い、家族参加の行事を通じて楽しい時間を一緒に過ごしたり、利用者の心配事等も家族に相談し、出来る事を取り入れて一緒に本人の為に支えあえる関係を築いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで大切にしてきた馴染みの人や家族との絆を重視し、交流や手紙・電話・外出・外泊等も自由にできるように支援に努めている。また、馴染みの場所へ出かけたりする企画も立てている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活や企画(各種教室やサロン等)を通じ、利用者同士が関わり合い、出来る事・出来ない事をお互いに支えあう関係作りができるよう支援している。			

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られ契約が終了した場合は面会に伺ったり、亡くなられた場合は命日にお墓参り行ったりお盆にはお花を贈ったりして、絆が途切れないようにしている。ホーム内の企画に招待したりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活を共にする中で、会話や個別ケアでの触れ合いを通じ、思いや希望・意向を汲み取る努力をし、困難な場合には観察から判断したり、家族と話し合ったりして本人の意向を汲み取るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や馴染みの暮らし方・生活環境等の情報等を、連絡ノートを活用し、情報の共有を図っている。また、家族や前ケアマネとも連絡を取り合って把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の心身状況に合わせた1日の過ごし方や有する能力の見極め等、日々の関わりの中で把握に努め対応している。また、勤務者は業務前に記録を読む事により、把握して仕事ができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には、本人からの言葉や家族・必要な関係者との話し合いや、職員からの情報収集・意見等を参考にして、現状に即した介護計画を作成している。見直しは3か月ごと或いは必要に応じて行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人一人の日々の様子や会話を詳細に記録に残し、気づきや工夫等を連絡ノートに記載することで、小さな情報でも共有し、実践や介護計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や日常生活を通しての関わりの中で発見したニーズ等を共有化し、本人の意向や思いを実現できるよう柔軟に取り組んでいる。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の中、利用者が積極的に自治会活動への参加や地域の中に出かける機会を作ることが難しくなっているが、感染予防に十分配慮し参加できるよう考慮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が選んだかかりつけ医の元で適切な医療が受けられるよう支援している。また、必要な方に関しては訪問歯科・訪問診療の往診を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師が週1回、人によって2回訪問した際、近状報告や気づきを報告し、情報共有している。その事により、個々の利用者が適切な受診や看護を受け、安心して暮らせるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供や入院中の状況把握に努め、早期退院に向け病院関係者や家族との情報交換・相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針について、契約の段階で説明・同意を得ているが、利用者の状況に応じて家族との話し合いの場を設け、事業所で出来る事・出来ない事を十分に説明しながら方針を共有している。 また、必要に応じて主治医・訪問看護師・家族・職員等の関係者と連携を取り、利用者が安心して暮らせるようチームとして支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や初期対応に関してのホーム内研修を行っている。今後は運営推進会議の場を活用し、地域の方々と共に救命講習等を開催していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行う事により、昼夜を問わず利用者が安全に避難できる方法を確認している。また、避難の際には緊急連絡網により、近隣住民の協力が得られるようになってきている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格や誇り・プライバシーを損ねることのないような言葉かけ(排泄や入浴に関する事や失敗を宣伝・指摘するような発言)や対応について、会議の場で話し合ったり、その都度、個別に話をしている。職員間でもお互いに配慮しあっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	少しでも自分で選択したり決定出来るような機会を多く設けている。また、外食会や外出企画の際には企画立案の段階から利用者に参加していただいたり、日ごろの会話の中から思いや希望を汲み取り、少しでも実現できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースで生活していただけるように柔軟に支援している。起床時間・就寝時間・入浴や食事の時間・日中の過ごし方等も、本人の希望・体調を考慮し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問利用を取り入れ、希望者に利用していただいている。また、起床時には一緒に好みの服(色)を選んでいただけるよう支援したり、顔拭き・顔そり等も解除し、身だしなみには配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作り昼食を週2回取り入れ、事前に利用者と一緒に買い物に行っている。自分たちで食材を選び献立を考えている。また、日常生活の中でも、簡単な調理や味付け・盛り付けや片付けを共に行う事により、役割を見出し、協力しながらも一人一人の力を発揮できるよう支援している。自分たちで作った味噌・パンを食べる楽しみもある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や水分量が1日を通じて確保できるよう、記録を共有して対応している。また、その方の状況や能力・習慣に応じた対応も、連絡ノートを活用しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きやうがい等、その方に応じて促しや介助を行っている。また、訪問歯科の協力により、定期的な口腔清掃や職員へのアドバイスも受けている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを排泄表により大まかに把握しているので、随時個々に合わせたさりげない誘いや介助をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常性や角中に体を動かす機会を意図的に取り入れたり、野菜を多く取り入れた献立や食べやすい形態にする等の工夫を行い、便秘の予防や改善に努めている。必要時にはDr.と相談し、下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者希望や必要に応じていつでも入浴できるよう支援している。無理強いはせずに本人と話したい自己決定に沿い対応している。一般浴槽に入るのが困難になってしまった利用者に対しては、入浴リフトを使用し手安心して安全に入浴していただけるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩や日常生活の中での身体を動かす機会を通じて、日中の活動量を増やし夜間グッスリと眠って頂けるよう工夫している。また、なかなか寝付けず眠れない方については、睡眠状況を観察・記録し、Dr.や家族に報告・相談し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容や副作用・注意点・薬の目的等、また服薬時の介助方法や注意点について連絡ノートで情報共有し、対応している。症状の変化等に関しては記録し、家族Dr.に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や買い物だけでなく、ボランティアに協力していたが、パン教室や生け花・味噌作りなどを行っていたが、コロナ禍の中難しくなっている。交流が途絶えないよう努めている。お花見やそうめん流し等各種季節の行事を大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を実現できるよう努力している。近隣の散歩だけではなく、ドライブやピクニック・日用品の買い物等にもお誘いし、戸外に出かける機会を多く支援している。季節行事以外にも、房総・いちご狩り・水郷佐原への日帰り遠足等、個々の希望を企画に反映させ、支援している。近年は重度化した利用者が増えているが、可能な限り、無理のないように出かけるよう支援している。コロナ禍の中感染症予防に最大限配慮し可能な限り行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方・希望される方については、家族の同意のもと自由であるが、現在は所持している人はいない。しかし、買い物に行った際には、スタッフに代わり利用者に会計をお願いすることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いのハガキ等、家族や友人宛に書いて頂いている。それ以外にも、手紙や電話のやり取りも自由にできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が居心地よく過ごせるよう配慮している。季節感や生活感を意識した飾りつけを利用者と相談しながら一緒に行っている。廊下やリビングの壁には各自の作品や小学生が作ってくれた折り紙・行事の写真を掲示し、思い出話をしたり、面会の方にも見て頂けるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士で盛り付けや調理・食事をしたり、談話や作業をしたり出来るよう、テーブルを分けたりまとめたりと対応している。また、リビングのソファーだけではなく、廊下にもベンチやいすを設置しているので、その時の気分に応じ、好きな場所でくつろいでいただけるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や使い慣れたものを持ち込んで頂いている。少しでも住み慣れた瀬戸環境に近づけ、安心して居心地よく暮らして頂けるよう配慮している。また、行事の写真や家族との写真・自分で作ったものなども飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には名前を大きな字で記名し、トイレ表示も大きな字で書いている。廊下には手すりを設け、夜間は足を照らす灯りを点けて安全対策をしている。夜間転倒しそうな利用者にはセンサーを設置している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと